

令和2年度

第1回草津市環境審議会 会議録（概要）

■日時：

令和2年6月4日（木）14時00分～16時00分

■場所：

草津市役所2階 特大会議室

■出席委員：

小林圭介委員（会長）、山田淳委員（副会長）、磯貝佳則委員、太田一郎委員、小笠原好彦委員、奥田裕介委員、海東まどか委員、久保木毅委員、阪口一男委員、杉江香代子委員、壽崎かすみ委員、中川智委員、堀井喜一委員、松村幸子委員、森毅委員、山崎賢委員、山元孝子委員、横田岳人委員

■欠席委員：

樋口能士委員、山川正信委員

■事務局：

環境経済部	藤田部長、田中副部長、高岡副部長
環境政策課	相井課長、柴野係長、榎本主査、福永主査、関主任
くさつエコスタイルプラザ	辻館長、古田主任
資源循環推進課	中島課長
農林水産課	三浦副係長
歴史文化財課	岩間課長
上下水道施設課	川元課長補佐
都市計画課	中野係長
公園緑地課	奥野課長補佐

■傍聴者：

なし

1. 開会

開会にあたって、橋川渉市長より挨拶。

2. 議事

(1) 第2次草津市環境基本計画の進捗状況について

【事務局】

<資料①～④について説明>

【委員】

環境基本計画達成目標進捗調査票の5番「環境汚染・公害への適切な対策」の「環境管理基準（BOD）の達成状況」について、未達成理由と今後の課題だけではうまくいかない気がする。平成30年から急に悪くなっているが、何か特別なことが起こったのか。

【事務局】

平成30年度と令和元年度で達成していない状況について、狼川流域の事業所の排水調査等を実施したが、原因の調査までには至っていない。特に大きく超過しているわけではないが、少し高い状況が続いている。

令和2年度以降も、引き続き排水調査を実施していき、適切な排水管理をお願いする等の啓発をしていきたいと考えている。

【会長】

下水道の整備状況からすると、家庭排水からというのは考えにくいですが、農業排水などいろいろのものが影響してきてはいると思う。下水道処理施設の委員をしていた時も狼川について何かしらの影響がみられたが、原因究明には至らなかった。

(2) 第3次草津市環境基本計画の策定について

【事務局】

<資料に⑤、⑥、⑧について説明>

【委員】

環境について、身の回りの都市環境等の見てわかる変化と、温暖化や公害など、見えない変化がある。第2次計画中的変化を市民に見て分かってほしい。

保護樹木等、大切な自然を残すにあたり、何ができるか考えてみる必要がある。

歴史環境的なところでも、草津宿本陣前の電柱を地中化し、景観管理に注力して欲しい。野路公園の整備も遅れていると聞いたが、景観整備はどういった状況か。

【事務局】

本陣前の整備については、従来から景観の重点地区指定等を行っている中で、無電柱化の実現に向けて検討を進めているところである。

野路公園の整備について、南区画の緑の減少に対し、約2.5ヘクタールの常葉樹を整備予定である。現在、第1工区を着手予定だが、用地交渉が進まず遅れている。

【委員】

市民目線で環境の話をする、緑地面積の増加、車が減少し自転車や歩行者が動きやすい等、目に見えるところしかわからない。地球に優しい生活を当たり前の行動に定着させるなら、公園・緑地の増加、こういう目に見えるところは非常に大事だ。

車から徒歩・自転車へシフトするなら、動きやすい道路が前提で、低炭素社会にはそこを併せて考える必要がある。ごみの量は、使用可能だが不用なものに対しては、リサイクルのルートを恒常的に確保する等しないと、さらなる減量は難しい。

海外では不用品を無料で引き取る仕組みがあったり、コロナ禍によるステイホーム中も自然と触れ合える等の記事を目にしたが、日本では似た例が無い。そういう所を作らないと、環境に関心がある人は一部の人で固定化されてしまう。

さらに活動を広げるには、環境を良くすることが自分たちの幸せにつながると思える仕掛けが必要だ。

【委員】

環境学習は小学生向けのものが多いが、本当に意味を理解して行動するには、中学生以上で意識が芽生えないと難しいため、上の年代向けの施策があればよいと思う。

学校教育の中ですることも大事ではあるが、定められた指導要領へどのように導入していくかは大きな課題だ。学校に限らず地域内でできる施策があるとよい。

【委員】

草津市で達成できそうな目標を掲げて、SDGsのキーワードを活用しながら、計画の各項目、評価軸に落とし込むのもよいと感じた。

コロナにより、働き方・暮らし方が変わった。ある自治体には、テレワークを推進し、都市部から人を引っ張ればどうかと進言している。草津市も通勤環境の良さから一定数増えた転入者へ、住環境の良さを実感いただけるものをつくる必要がある。

エコミュージアムの展開について、ミュージアムとして資料を保存、研究、活用するには学芸員等が必要だ。場合により博物館や維持管理する人も必要になる。

例えば自然・経済の両立であれば、農園、漁業との連携等、様々なやり方があるが、その核がエコミュージアムと考えられ、経済活動との絡みも含めた体制づくりを考える必要がある。

【委員】

多様な主体との協働だけでなく、主体性や自主性が必要だ。各主体が果たすべき役割は今でもできているが、自ら動くことを考えなければ、生活に結び付かない。

また、SDGsについての市民の理解度について疑問に思う。具体的にすべきことを分かりやすく市民・事業者伝えることで、この経済・環境・社会という三つが結び付いていくと思う。環境文化の醸成があるからこそ、持続可能な社会の実現に向かうと思う。そういったことも盛り込んでいただきたい。

【委員】

これまでの環境活動は関心のある方の取り組みであり、新しい計画では環境への意識の向上を掲げる必要がある。私の職場では、清掃ボランティア等を行っているが、職員全体に環境意識があるわけではない。大人と子どもが一緒になって環境問題を考え、理解できる、そんな取り組みや活動を行っていったらどうか。

【委員】

環境活動は地域ごとには実施されているが、活動同士のつながりは殆どないと考えられ、今後はそれらを広げていくことが必要だ。SDGsは私の職場でも知らない人のほうが多い。知らない人にどう説明し、どう取り組んでもらうか検討が必要だ。

【委員】

夏季は草津川に外来のヒシが繁茂する。昔の在来のヒシは青く、蒸して食べていたが、外来のヒシは中が空洞で食べられない。6月現在で、浅い所では一面に出てきている。人工島の周辺では、8月にかけて船が走れなくなり、においもする。水草刈り取りもやっているが追いつかない。市の方も協力をお願いしたい。

【委員】

見て分かる取り組みというのは、非常に大事だ。一部の関心のある人だけが取り組んでいるという実態は、多くの市民が自分ごとになってないということだ。それは、市民にさせてないからではないかと思う。

暮らし方が変わっているという話があったが、市民も変わってきている。東洋経済新報社の調査で、草津市は西日本一住みやすいという記事が掲載されたが、新しく市民になる方がたくさんいる。南草津駅の西は都市開発がなされ、新しい住宅地ができている。見て分かる取り組みも含めて政策の策定をすればよいと考える。

【委員】

素案の考え方は、市や県の施策を反映してあり全体の流れとしてはよいと考える。

公害対策という言葉だが、環境省の第五次基本計画の基本的方向の参考資料の中で、『「世界の範となる日本」の確立』に『①公害を克服した歴史』と書いてある。このため、公害という言葉につき検討してほしい。環境保全が良いかもしれない。

草津市では先進的に防災対策をやっていると感じるが、具体的な取り組みとして、今回の計画に自然災害のリスク、あるいは対策を入れてはどうか。

【会長】

公害審議会は草津市ではなくなっているのか。

【事務局】

そちらの審議会がこの環境審議会になっている。

【会長】

では、公害という言葉は考えていかなければならない。

【委員】

昨年3月に東京から引越してきた。東京では騒音等の公害に囲まれて心も不安だったが、草津では比良山の夜明け、琵琶湖等を見て、本当に心豊かに過ごしている。一方、古墳の木が切られる、神社の木が無造作に切られる等、残念な部分もある。

第3次の計画では、今ある地域資源、環境、森、琵琶湖の環境を「守る」、「改善する」というキーワードを用いばどうか。

【委員】

コロナにより、世界中で生活形態、心の変化が生まれ、人を助ける気持ちが広まった。これからは自らが湧いてくる仕組み、そういう状態が一番よい。その意味で、第3次計画策定のタイミングはチャンスだと考える。

子どもたちが、環境学習でエコクッキング等に取り組んでいるが、学習だけで終わって生活に取り込まれていない。例えばエコクッキングでは地域の素材としてモロコを使うが、子どもたちが食べたいのはハンバーグである。だからそこから全然つながっていかない。ワクワクする何かが必要である。

また、農家の出荷できない廃棄野菜をどう生かすのかというような仕組み作り等、環境、経済、社会の循環を第3次計画に入れるにあたり盛り込んでいただきたい。

【委員】

環境が大切、守らなければならないということは誰でも思うが、具体的に何をするのか聞いたとき、多分殆どの方が答えられない。そんな中、絶対これをやってもらいたいということを具体的な施策に起こすことが一番大事と考える。新しい計画で本当に一般市民に何をやってもらいたいのかを落とし込む仕組みが必要と考える。

【委員】

私は、ごみ問題を考える市民会議に携わっており、レジ袋問題に何年も前から取り組みを始めたが、最近は殆どの方がマイバックを持っており、だいぶ浸透してきた。

新クリーンセンターが稼働したことで、自分で持ち込むと安くつくというルールができてごみが増えていることへの対策や、3010運動につき、新しい計画で謳っていけたらよいと考える。

【委員】

コロナ禍で外に出れないため、毎日家の周囲を散歩しているが、田んぼの中に今まで気づかなかった鳥や魚がいることに気付き、心安らぐ環境だと思う。他の委員がおっしゃったように、今ある環境を守っていくことも大事だと思う。

第3次計画に環境学習が挙げられているが、具体的に何をすればよいかわかるようにすべきと思う。例えばマイバックを持つことや、CO₂削減のために徒歩や自転車の利用といったことが分かりやすく出てくると、自分ごととして捉えていけると思う。

【委員】

計画素案につき、県も同様の方針を掲げているが、施策への落とし込みは難しいと感じている。環境の分野ではSDGsに基づき施策にさらに工夫することはもちろんだが、他の部署でもSDGsに則って、環境へ目を向ける流れになっていると思う。

コロナ禍の中、人や物の移動に制限がかかり、地域資源の活用を改めて考えるチャンスかと思う。県では地産地消のキャンペーンで、地元食材を取り入れている事業所への宅配補助を始めたが、環境部局ではなく農政部局で行っている。他部署が持つチャンネルを少し工夫することで、ぐっと進むこともあるのかと感じている。

他部署の方にもこういったポイントで政策を考えていただくと、今まで環境に関心なかった方にもアプローチする方法等が出てくるかもしれない。

【副会長】

本日多くのご意見をいただいたが、議論するのはこれからだと思う。事務局が今日の意見をどうまとめて、次の計画案に反映するのか興味を持っている。

これからの12年の計画を作るに当り、このようなコロナウイルスの影響が生じ、私たちの働き方や生活の仕方を考え直す絶好のタイミング、千載一遇のチャンスだ。

環境基本計画としては、皆さんのご意見をできるだけ反映させながら、有効性のある画期的なものを作れば良いと感じた。

【委員】

廃棄物を原料として再利用することで廃棄物を削減し、循環型経済を回そうという考え方がある。資源循環にも3Rをさらに拡大した捉え方で盛り込んでほしい。

【委員】

SDGsの17のゴールの中には、貧困、男女の平等といったものもあるが、日本では環境がらみの話ばかりが多いと思う。今回の環境基本計画にもSDGsもあるということで、SDGsのこの部分を対象とする、というふうに、はっきりしてほしい。

3. 草津市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）の策定について

【事務局】

<資料に⑦、⑧について説明>

【委員】

地球温暖化対策を分かりやすくするためにCO₂に絞っていると思うが、現行計画の冊子の4ページは、対象の温室効果ガスとしてCO₂以外に、メタン、N₂O、フロン類等が上がっている。この報告書の中ではCO₂しか取り扱っておらず、他の温室効果ガスがどうかは見えていない。さらに、電気のCO₂排出量は、電気代から推計された数値と排出係数を使って出されていると、実際のCO₂排出とかけ離れた数字になりがちである。

啓蒙活動として変化を示す上では良いが、エネルギーの消費量がどうかということ、素直に示したほうが分かりやすい。電気からガスへの切り替えなどもあるため、そのあたりが反映できるようにするためにはCO₂にこだわらず、エネルギーの消費量等を、今後検討に加えていただければと思う。

【委員】

CO₂排出量削減で、私たちにできることとして、地産地消があると思う。他県の食料品の輸送の部分も考えると、なるべく市のものを買うという取組はできると思う。

電力のCO₂が増加している要因として、スマホなどネットにつながったサーバーの冷却のための電力が非常に大きいと言われている。10年前の新聞記事だが、確か年間で自動車300万台ぐらいのCO₂排出量に匹敵するという話があった。

今、家でネットを使うだけで相当のCO₂を排出していると感じているので、そういった数値も見える化すると面白いと思う。草津指標というものを少し突き詰めて見える化すると面白い、また未来に向かうことにつながるかと思う。

3. その他

【事務局】

本日いただいたご意見を踏まえ、次回、環境基本計画の素案として提示する。

4. 閉会

閉会に当たって、山田副会長より挨拶。